

マツノマダラカミキリに関する研究 VI

—羽化直後および餌木反応個体の後食木停留率—

林業試験場九州支場 森 本 桂
岩 崎 厚

マツノマダラカミキリに運ばれるマツノザイセンチュウは、カミキリの羽化脱出後1月以内に虫体を離れてしまう。あるマツに侵入する材線虫数は、カミキリがその木に止る回数、止っている時間、後食量、虫体からの材線虫落下状態など、即ちそのマツにカミキリが停留する時間の長さが侵入する材線虫数に大きく関係することが推定される。この停留率を、羽化脱出直後および餌木で採集した個体について1972年5月から9月にわたって調べたので報告する。

調査方法

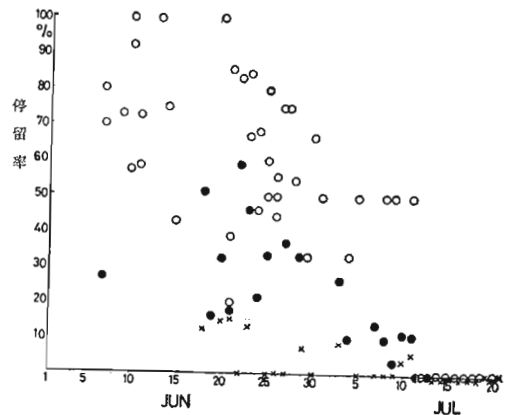
- 十分に乾燥した被害丸太から羽化する材線虫を持たないカミキリに番号をつけ、5月30日から7月12日まで、支場実験林のクロマツ（樹高2m）に放し、その後の停留数を虫の番号で記録した。
- 支場実験林に8か所設置した餌木に集まるカミキリも6月4日から9月4日まで、同様に番号をつけて放した。
- 停留率は、日単位で前日の番号虫数に対する％で計算した。

結果と考察

結果は図に示した。

被害木から羽化脱出したカミキリについては、放虫と同時に飛び立つものがあるので、放虫後1日目の停留率は2日目以降より低くなっているが、餌木でとれた虫に比べると相当に高くなっている。

全体の傾向として、6月から7月へ季節が進むにつ



マツノマダラカミキリの餌木停留率

黒丸：羽化直後，1日目

白丸：同，2日以降

×印：餌木での採集個体，1日目

れて停留率の低下がみられ、梅雨があけてからはほとんど停留がみられなかった。

羽化脱出直後の停留率が高いことは、無被害林に枯損木を持ちこむとその集積地を中心に被害が現れることや、被害木を放置すると周辺に被害が発生しやすいという観察例を裏付けるものである。

参考文献

川畑克巳・古城元夫：松くい虫被害の伝播について。

日林九州支部研論25：198～200，1971。